

中経論壇

経営支援NPOクラブ
川上 博史



「経営とは」というテーマにし、聴衆の方々にも問題意識を共有してもらおうことにした。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、当社で社員対象にモチベーション研修を行ったことを、SNSで投稿したことが知人の経営者の目に留まり、2カ所から相次いで講演の依頼があった。新型コロナウイルス禍、経営者として感じていることを話していただければ結構というのであったので、自分自身でいまだに正解を見出せていない「人を活かす経営」について、

現在、私は月に1回、社長朝礼を実施しているが、その時に決めていることは、①業績の現状を隠さず開示すること②その時々テーマを毎月手短かに伝えること③前月の良かったこと探し④従業員への協力依頼という形を崩さず継続することである。二番目のテーマの内容

は「人を活かす経営」である。著者：経営者や思想家、勝負師、芸人、アスリートなどが

「人を活かす経営」とは

発する一言で、全く異なる世界で仕事をしている従業員に響くようなものを選んでみる。

例えば、経営の神様といわれる松下幸之助翁の「悪い時は過ぎれば良い時は必ず来る。おしなべて、事を成す人は必ず時が来るのを待つ。あせらずあわてず、静かに時が来るのを待つ」、故野村克也監督の「不審な人間は苦勞するけど、徹してやれば、器用な人間より不器用な人間の方が最後は勝つよ。敵に勝つより、もっと大事なことは、常に自分をレベ

ルアップすること」、将棋の羽生善治の「報われないとこ

ろで、同じ情熱、気力、モチベーションを持って継続しているのは大変なことであり、私は、それこそ才能だと思っ

ている」、「佐藤一斎やイチロ」などの言葉もよく紹介している。

私は人材育成関連の仕事に長く携わってきたが、個人の資質・能力以上にやる気と努力度が大事であると確信して

いる。やる気を引き出すために、何でも話し合えるオープンな環境の中で、その人の長所と向き合い、成果を出した時には心から褒めることに

尽きると思っている。ウィリアム・ウォードの「偉大な教師は、生徒の心に火をつける」という言葉通り、従業員一人一人の能力資質、個性を丁寧に観察し、それぞれの心にスイッチを入れることこそ「人を活かす経営」実現への近道だと思っている。

一人一人の心にスイッチを入れる